

# 福祉フォーラム通信

No.28 発行日：2023年3月31日

## ご報告 2021年度福祉フォーラム「対話共創型プロジェクト」を開催しました。

福祉フォーラムは、1998年に創設され、20年以上が経過しました。当初は産官学の連携を中心においた事業を展開、2016年度からは地域（住民）やNPO、社会福祉施設・機関のスタッフに焦点を当てた様々な事業を行ってきました。

さらに約15年が経過し、社会情勢や社会福祉政策なども大きく変わってきました。そこで、2021年度から事業内容をリニューアルし、「共生」「協働」をさらに進展させる事業を展開しています。

新たに取り組んでいるのは、年間を通して一つのテーマを深めていく「対話共創型プロジェクト」です。また、社会福祉実践に関わる専門職やスタッフを対象とした「専門セミナー」は継続して実施しています。

以下、2021年度の取り組みを紹介します。

### 福祉フォーラム 対話共創型プロジェクト テーマ「お寺で出会い、地域にご縁～つながり・居場所をどう作るか～」

福祉フォーラムでは、2021年度から新たな取り組みを実施することとなりました。この新たな取り組みのねらいは、あらかじめ設定した年間テーマ（社会福祉課題）をめぐり、1年間を通して具体的な実践・施策の提案などについて参加者同士で多様な側面から考察しあい、理解を深めあう機会・場を作ることです。具体的には、複数のオンライン講座や対面形式による講座を提供し、テーマに関する学びを通じた新たな出会いのきっかけづくりを目指しています。

2021年度は、地域に暮らす人びとの間に「つながり・居場所」をつくる機会や場となる可能性を持つ「お寺」に着目し、社会的な活動を行ってみたい寺院関係者と、お寺とつながってみたいと考えている福祉関係者との対話を通じて、面白くて新しい取り組みができないか共に探ってきました。

#### ・第1回オンライン講座 「お寺でできること～コロナ禍での活動を考える」

日時：2021年7月10日（土）13:30～15:30

講師：中平了悟氏（浄土真宗本願寺派清光西正寺住職）

浄土真宗本願寺派清光西正寺住職 中平了悟氏の講演では、ご自身がかかわっておられる多様な取り組み事例の紹介を通じて、「まちづくり」や「福祉」「ダイバーシティ」等、多方面につながる「お寺」の可能性、社会における「お寺」の位置づけについて示唆に富んだお話をうかがいました。多様な事例の中には、コロナ禍でも続けられる活動やその展開の可能性についてのヒントがたくさんありました。

講演の後に参加者同士で行ったグループディスカッションでは、これからの社会においてお寺ができること、お寺という場の役割について理解を深めることができました。特に、「お寺は地域社会の中心にあるのではなく、地域社会を作る担い手の一つである」という中平先生のご見解はこのプロジェクトにとって示唆に富むものでした。また、「お寺だからこそ出来る事」と「お寺でも出来る事」を両方とも行っていくという視点も学びました。

参加者からは、「仏教系の龍谷大学らしさが出ていた。」「お寺はどの地域にも地域資源として在る存在だと気づきました。中平先生の活動のような先進的な取り組みを参考にしたいです。」「コロナ禍で人と集う機会が減ったが、逆にこうしたツール（zoom）を使って思いもよらないお話を身近に聞いた。」などの声が寄せられ、実りあるセミナーとなりました。



## ・第2回オンライン講座 「お寺とつながるには～若者たちの居場所づくり索」

日時：2021年8月22日（土） 13:30～15:30

講師：佐藤 すみれ氏（NPO 法人やんちゃ寺 理事長）

NPO 法人やんちゃ寺理事長 佐藤すみれ氏のご講演では、「やんちゃ」な若者たちに居心地の良い居場所を提供する活動をしている「やんちゃ寺」の大変貴重な活動が生まれてきた経緯や背景にある理念、実際の活動内容について詳しく教えていただきました。

また、活動の場として「お寺」とつながることの意義、しんどさを抱える若者と一緒に過ごす場として「お寺」の空間が持つ「良さ」についても教えていただきました。

質疑応答における、子どもが少ない地域で「子ども食堂」を実施しようとしても話が進まないということを打ち明けたお寺関係者の方への「各寺院が存在する「地域」毎に異なる「需要（問題・課題）」があると思う。それに対応する活動をするということが大事ではないか」というお返事は、当プロジェクトにとっても大変重要な視点であったと受け取らせていただきました。

参加者からは、「刺激的でした。」「講演後、グループディスカッションで参加者とお話でき、楽しい学びのひとつでした。」「以前は地域での行事（市町村の運動会、地蔵盆等）がありましたが、地域での集える場が減り、多世代が交流できる場がお寺を通じてできればと感じております。」「地域住民のニーズ把握も経営面を先読みして行政と一緒にしていくことも必要だと感じております。」等の声が寄せられました。



## ・第3回オンライン講座 「お寺で何をする？～新しい展開を模索」

日時：2021年9月26日（日） 13:30～15:30

講師：岡寄 秀恵氏（浄土真宗本願寺派重点プロジェクト推進室部長）

浄土真宗本願寺派では、地域とのつながりや自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献することを目指し「重点プロジェクト」として様々な取り組みを進めておられます。重点プロジェクト推進室部長 岡寄秀恵氏からは、浄土真宗本願寺派寺院が全国各地の地域で取り組んでいる活動事例が12例紹介されました。朝市、アート、子育て支援、ホームレス支援、子ども食堂、子どものための居場所づくり、海外の子どもたちへの支援など、幅広い活動が紹介された。

結論として示された、「これまでの活動を踏まえ、地域との協力のもと、再構築し、充実発展させることが大切である」「お寺が、私ができること、人や地域とつながること、ご縁をつないでいく」という観点は、お寺が人びとをつなぐ拠点となるための具体的な方策を考えるうえで、基本となる視点でした。

参加者からは、「寺院での取り組みについて、事例を教えていただけて良かったです。」「様々なお話を拝聴でき学びになりました。ファシリテーターが各グループにおられたこともありワークもスムーズに行えました。」「実践例を聞いたり、グループワークでの交流を通して、これからは誰とどうやって手をつなげていけばいいのか、どのようにすれば楽しくやっていけるか、という視点を持ってやっていこうと思いました。」等の感想が出されました。



## ・対話共創ワークショップ

日時：2022年3月12日（土） 13:30～15:30

2021年度の総まとめとして、対話共創を目指したワークショップを開催しました。お寺との地域活動の事例の仮想シナリオをもとに「世代と地域を超えたコミュニティーケアの構築／次世代を担う子どもたちと「いのち」を考える」と「まちづくりの拠点としてのお寺活用」の2つのグループに分かれて、このような活動をする際に課題となることについて議論しました。

ワークショップの取り組みからは、「お寺」の可能性に気づいていない人びと（福祉関係者含む）が少なくないと考えられること、「イメージ」によって互いに近づきにくい関係性にある可能性があること、またお寺側・福祉側双方に新たな連携相手として選択するために解決すべき「課題」があることなどが、参加者の具体的な経験をもとに確認されました。

参加者からは、「お寺の考えていることや、こういったお寺にアプローチをしていくことがよいかを改めて知ることができ、非常に有意義な時間でした。」の感想が出されました。



# 福祉フォーラム第25回専門セミナー 「対話を起点とする実践 ～オープンダイアログの視点と方法～」を 開催しました。

日時：2021年12月18日（土）  
場所：瀬田キャンパス多機能教室

講師：村上 純一 氏  
（医療法人明和会 琵琶湖病院精神科医）  
井川 和行 氏  
（医療法人明和会 琵琶湖病院精神科ソーシャルワーカー）  
山中 一紗 氏  
（医療法人明和会 琵琶湖病院精神科ソーシャルワーカー）  
進行 山田 容 氏（本学社会学部教授）

専門セミナーは社会福祉実践に関わる専門職やスタッフの方を対象とした講座で福祉、保健、教育などの現場で直面する問題についての悩みや解決策を話し合ったり、専門的スキル向上を目指すものです。

今年度は、近年、精神医療分野で大きな注目を集めているオープンダイアログの手法から、当事者との対話を重視した支援の思想、実践を学ぶこととし、医療法人明和会琵琶湖病院から精神科医の村上さん、精神科ソーシャルワーカーの山中さん、同法人グループホームみなもからサービス管理責任者の井川さんをお招きし、セミナーを開催しました。

24名（定員30名）の参加があり、まず参加者同士の自己紹介に始まり、参加者の受講にあたっての期待が共有されました。その後、琵琶湖病院の取り組みが紹介されるとともに、当事者を尊重した対話の重要性が確認され、相互に話を聴くワークが行われました。

支援実践は、しばしば支援者ペースで進められていることがあり、その展開に当事者が納得できないものを抱えるとき、拒否や沈黙が生じます。支援における対話は、ただ当事者の参加を促すだけではなく、それぞれのちがいを尊重するための方法あることが理解できました。

参加者からは、「対話に重点をおいた支援が大切だと思いつつも支援の枠のとりわれ、結果を急ぎすぎる支援になっていることに気づきました。」「高齢者の方で仕事をしているのですが、どこの領域でも対話は大切。本人や家族の思いを聞くことが支援のかぎとなると感じました。」「講師3人の方の話方、やりとりによってオープンダイアログの雰囲気を感じた気がしてとても良かったです。」等、様々な声が聞かれ、実りあるセミナーになりました。

龍谷大学福祉フォーラム 第25回専門セミナー  
**対話を起点とする実践**  
～オープンダイアログの視点と方法～

支援決定への当事者の参加は、支援関係上の基本原則でありながら、実際には様々な理由で十分に保証されず、支援者の判断や家族の意向が優先されることがあります。当事者の思いが十分に聴かれることなく、パターン化された標準化された支援は、「効果的」ではあっても、支援自体が人を抑圧していくことにもなりかねません。支援者が当事者の声を大切に聴き、対話しつつ、共に働きかけていくという支援の展開には、意図とともに具体的な実践方法についても学びが必要です。そこで今回の専門セミナーでは、近年、精神医療分野で大きな注目を集めているオープンダイアログの手法から、対話を重視した支援の思想、実践方法を学びたいと考えております。

**対象者**  
福祉、医療、心理現場の支援実践者

**日時**  
2021年12月18日（土） 13時00分～15時30分

**場所**  
龍谷大学瀬田キャンパス、2号館 多機能教室1

**講師**  
村上 純一 氏（琵琶湖病院医師）  
井川 和行 氏（琵琶湖病院精神科ソーシャルワーカー）  
山中 一紗 氏（琵琶湖病院精神科ソーシャルワーカー）

**進行**  
山田 容 氏（本学社会学部教授）

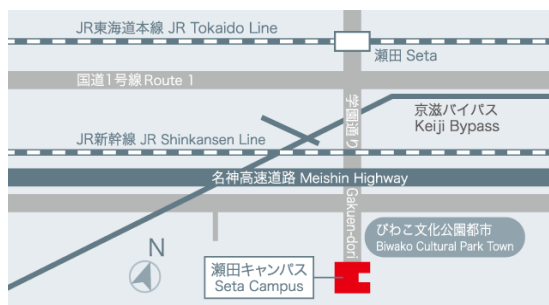
主催：龍谷大学福祉フォーラム



## 福祉フォーラム通信

No.28

お問い合わせ 龍谷大学福祉フォーラム事務局（REC 滋賀）  
〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5  
Tel 077-544-7291 Fax 077-543-7771  
E-mail r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp  
HP <https://rec.seta.ryukoku.ac.jp/welfare/>



### Access

- JR東海道本線「瀬田」駅から産産バス約8分「龍谷大学」下車  
Approximately 8 minutes by bus from JR Seta Station (Tokaido Line)
  - JR東海道本線「大津」駅から近江鉄道バス約20分「龍谷大学」下車 ※  
Approximately 20 minutes by bus from JR Otsu Station (Tokaido Line) \*
  - 京阪本線「中書島」駅から京阪京都バス約30分「龍谷大学」下車 ※  
Approximately 30 minutes by bus from Keihan Chuushojima Station \*
- ※授業期間中のみ \*Buses run only during class period.